

2007年UNDP大図們江イニシアティブ 「ビジネスフォーラム」

ERINA調査研究部研究主任 三村光弘

諮問委員会翌日に開催された民間人主体の会議

2007年11月16日、ロシア・ウラジオストク市のヒュンダイホテルで「2007年UNDP大図們江イニシアティブビジネスフォーラム」が開催された。前日に開かれた第9回大図們江イニシアティブ諮問委員会に引き続き開催であった。諮問委員会が政府代表が集まる会合で、大図們江イニシアティブをどのように推進していくかの大枠を定めるのに対し、その枠組みの中で、民間事業者がどのようなビジネスを展開するのかについて議論を行う場として行われたものが本フォーラムである。

3つのセッション・2つの分科会

本フォーラムは、セッション1として「北東アジアの投

資政策」について、各国の投資政策や各国からの投資についての助言が政府の官僚や政府系機関の代表から発表、討論された。日本からは、日本貿易振興機構（JETRO）大連事務所長の藤原弘氏がパネリストとして参加した。

セッション2は「大図們江地域のビジネス環境」と題して、大図們江地域におけるビジネスの現状と可能性について、地方政府（地方自治体）の代表や企業の代表、研究機関の代表から発表、討論が行われた。日本からは、NPO法人 北東アジア輸送回廊ネットワーク（NEANET）事務局長の足立英夫氏が、新潟とロシア・トロイツァ（ザルピノ）、韓国・束草を結ぶ航路開設準備の現状について発言した。

セッション3は、「北東アジアにおける投資機会」という内容で、「運輸・物流・観光」と「エネルギー・環境」の2つの分科会に分かれて行われた。前者にはERINAから三橋郁雄特別研究員が参加し、北東アジアにおける経済交流の促進とそれを実際に促進する手段（航路開設）の必要性、その難しさについて発表を行った。後者ではロシア、米国、中国、日本などの政府関係者や研究者、民間事業者が主にロシアと周辺諸国とのエネルギー協力について話し合った。

朝鮮半島における緊張緩和の予感はそれほど強くなかった

最近、ロシアや中国、韓国は米朝接近、六カ国協議の進展にともなう朝鮮半島の緊張緩和とそれに伴う北朝鮮のカントリーリスクの減少をにらみ、様々な舞台でつばぜり合いを繰り返しているようであるが、今回の会議においては、公式発言としてはそのような発言は行われなかった。

ただ、コーヒープレークや昼食時の会話では、米朝接近・六カ国協議の進展に関心を示す人が多かったように思う。

中国の企業は、沿海部の企業の代表の参加が比較的多く、関心が高いようであった。韓国は企業よりも、韓国開発研究院（KDI）の院長が参加して発表するなど、政策研究機関中心の布陣であった。アメリカの企業は旅行社などが参加していたが、今回の投資フォーラムには大量参加するほどではなかった。日本からは、JETRO大連事務所からの2名をはじめ、ERINA、NEANETなど数名の参加があった。

資料：ウラジオストク宣言

ご参考までに15日の諮問委員会で採択されたウラジオストク宣言の日本語訳をご紹介します。

ウラジオストク宣言

大図們江イニシアティブ第9回諮問委員会

2007年11月15日、ロシア、ウラジオストク市

1. 緒言

大図們江イニシアティブ（GTI）の第9回諮問委員会はウラジオストクにおいて2007年11月15日成功裡に開催された。すべてのGTIメンバー諸国（中国、北朝鮮、モンゴル、韓国、ロシア）の政府代表（以下「参加者」とする）はこの会議に参加した。すべての参加者はこの地域のイニシアティブの将来の方向についての図們江事務局による提案に対して支持を表明した。

各参加者は協力して、経済協力や社会的、経済的繁栄への貢献、北東アジアにおける経済政策対話を上げる上での触媒役として、独創的な政府間機構としてのGTIの役割を一層促進するために、懸案問題を解決するための議論に積極的に参加した。

2. 長春合意のフォローアップについて

ビジネス諮問委員会（Business Advisory Council = BAC）

参加者は活発に議論を交わしBACの取り決め事項（TOR = Terms of Reference）を承認した。BACは参加国の上級のビジネス・リーダーおよび著名な個人ならびに海外投資家から成る。BACは非政府機構として、民間セクターの主導および資金で運営される。BACのスターティングメンバーは、BACに関する特別議題に関する、第9回諮問委員会の第2セッションに参加した。全ての参加者は恒久的な民間 - 政府間対話の場を提供する新しいGTI下の組織であるBACの創設を歓迎し、国連国際パートナーシップ事務局からの支持を賞賛した。

エネルギー委員会（Energy Board）

参加者は、地域エネルギー協力を通じて大図們江地域におけるエネルギー安全保障の改善に貢献するエネルギー委員会の設立に同意した。さらに、エネルギー委員会は、この地域のより良い全般的エネルギー計画の確実な基礎となり、GTI地域の経済発展を加速させることが期待されている。

参加者は、エネルギー委員会がGTI地域の経済発展を加速するためのエネルギー関連インフラ開発のための仲介役となることを承認した。

観光委員会 (Tourism Council)

参加者は、観光委員会が地域内の観光活動の領域における、政府および諮問委員会に対する諮問機関として設立されることに合意した。観光委員会は、GTRにおける国境を越える観光の流れを容易にし、観光施設やサービスを提供し、鍵となる市場への図們江地域観光商品を作るなど、観光セクターにおける戦略目標を達成するための制度上のツールを用意するものである。観光委員会は、公共および民間セクターの代表から構成される。

環境における協力の枠組み

参加者は、環境が分野横断的な懸案事項としてGTIにとって重要な問題であり、環境における協力の枠組み (Cooperation Framework on Environment = CFE) がGTRにおける環境保護の努力を協調させることを目指した、正式な国境を越えたメカニズムとして設立されることに留意した。

参加者は、CFEが既に存在する研究機関、プロジェクトやイニシアティブを強化し強調するキャパシティ・ビルディングの努力としてとらえられるべきであることを理解した。CFEは調整を行う部門とワーキンググループから構成される。調整を行う部門は、全般的な課題とCFEの協力枠組みを調整し、ワーキンググループは具体的な活動の実行に責任をもつ。

大図們江イニシアティブ (GTI) の新たな覚書

参加者は、GTIの新たな覚書の署名手続を速やかに終了させ、図們江事務局の運営費用を支出するために、新設した共通ファンドへ資金を送金することに同意した。

3. 増加した地域協力へのビジョンとプロジェクト

鍵となるセクターの多くの具体的なプロジェクトは、今後数年間の間にマーケティングを進め、追加的な資金調達を可能とするために「GTIプロジェクト」と名付けられる。これらのプロジェクトは、GTRおよび北東アジアの経済開発と協力を促進することが期待される。GTIプロジェクトは地域協力における二国

間交渉を補完するものであることが同意された。

4. 2008年の予算と年間事業計画

参加者は、図們江事務局の2008年の予算と年間事業計画を承認した。参加者は、2006年と同様の原則と方式に従って、図們江事務局の2007年の運営費用を支払うことに同意した。

5. 将来への道

参加者は、第9回諮問委員会会議のホストであるロシア連邦政府および沿海地方政府のすばらしい手配に対して、また図們江事務局に対して謝意を表明した。モンゴルから第10回諮問委員会会議を2008年にウランバートルで開催することが提案され、メンバー諸国により同意された。